

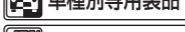
正像/鏡像出カタイプ

NV350  
キャラバン(E26)  
[リアアンダーミラー装着車専用]

リアカメラキット  
取付/取扱説明書



保安基準適合品



車種別専用製品



日本国内専用

このたびはデータシステム製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
●この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。その後大切に保管し、必要な時にお読みください。  
●保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

**ご相談窓口**

**お電話 086-486-0442** サービス(技術的なお問い合わせ・修理受付)  
【受付時間】月曜日～金曜日 10:00～12:00 / 13:00～17:00  
(年末年始/祝日など、弊社休業日を除く)

**メールでのお問い合わせ**

<https://www.datasystem.co.jp/support/index.html>

**製品取付・製品紹介動画サイト**

<https://www.youtube.com/user/datasystem001/videos>

**Data System 株式会社 データシステム**

■ [ 本 社 ] 東京都新宿区新宿1-18-2 ■ [倉敷支社] 岡山県倉敷市神田1-1-11  
弊社に無断で本説明書の内容・図・写真の全部、または一部の複製(コピー)・転用・転載を禁じます。  
RCK-24C3/RCK-24C4-2207-AKN

保証について

本製品は、日本国内で車検を受けた車両専用設計された製品であり、弊社が認める適合車両以外への取付け、および日本国外での販売や使用を禁止しています。  
万が一、日本国外で使用されたとしても、弊社は一切の責任・保証を負いませんのでご了承ください。  
●付属の保証書に必要事項をすべてご記入ください。特に販売店印及びご購入日の記入がない場合、保証書は無効となります。保証期間を有効にするために、必ずユーザー登録をおこなってください。  
※保証期間はご購入日を含めて「1年間」となります。  
※ユーザー登録をおこなわない場合、保証期間は無効となります。  
※保証規定は保証書を参照してください。  
※保証書は如何なる理由があっても再発行致しません。あらかじめご了承ください。

保守部品の保有年数について

この製品は、補修用部品の入手性、修理後の性能保証の観点から修理対応期間(保守部品の保有年数)を製造打ち切り後、6年間に設定しています。  
※修理対応期間は目安であり、実際の期間は若干異なる場合があります。修理対応期間(保守部品の保有年数)を終了している製品については、修理のご依頼をお受けできない場合があります。

仕様

カメラ部	
映 像 素 子	1/4インチ スーパーCMOS
有 効 画 素 数	32万画素
水 平 解 像 度	450TV本
水 平 画 角	110°
垂 直 画 角	80°
映 像 信 号	NTSC
電 源	DC9～15V
消 費 電 流	約40mA
重 量	約20g(ステー含む/ケーブル除く)
動作可能温度	-20℃～+65℃
出 カ タイ プ	正像/鏡像映像(ガイドライン表示なし)
ヒ ュ ー ズ	1A

カメラカバー部	
外 形 寸 法	幅96mm×高さ60mm×奥行36mm

- 付属の脱脂クリーナーで必ず脱脂してから両面テープを貼り付けてください。
- カメラカバーのサイズは、気温や湿度などの影響により若干異なる場合があります。

注意事項の定義について

注意事項は「**▲危険**」、「**▲注意**」、「**●警告**」、「**Ⓜ重要**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

<b>▲危険</b>	守らないと、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が高いもの
<b>▲注意</b>	守らないと、車両及び製品を破損、または故障させる恐れがあるもの
<b>●警告</b>	守らないと、法律に違反する恐れがあるもの
<b>Ⓜ重要</b>	本製品を使用する上で知っておいていただきたいこと

使用上の注意

▲カメラ映像は、ドアミラーやバックミラーなどと同様に、あくまで車の安全をサポートするためのものです。本製品使用時は、必ずドライバー自身が直接周囲の安全確認をおこなってください。

- Ⓜカメラ映像は、視野角やレンズ形状などから実際の距離とは距離感が異なります。
- Ⓜカメラに電源が入った直後や、カメラの使用中にカメラ映像の明るさや色あいが変化することがありますが、これは周囲の明るさをカメラが検知し映像補正するために発生する症状ですので、故障ではありません。

▲自動洗車機などによる高圧洗浄はおこなわないでください。内部に水が浸入して故障の原因となる場合があります。

- 本製品のカメラは、必ずカメラカバーとセットで車両に装着してください。
- Ⓜ本製品を使用して発生した事故、違法行為、車両の故障または破損などの責任は一切負いません。

カバーの塗装について

▲本製品のカバーはウレタン製です。塗装するには専門の知識が必要ですので、塗装は専門業者に依頼してください。

内容物一覧

- カメラ ×1
- カメラカバー ×1
- ピン端子ケーブル(6m) ×1
- 電源ハーネス ×1
- コードクリップ ×4
- 防水ラバー ×1
- 脱脂クリーナー ×1
- 防水グロメット ×1
- エレクトロタップ ×2
- カメラカバー固定用両面テープ(細) ×2
- 取付/取扱説明書(本書) ×1
- 保証書  
ユーザー保証登録カード ×1

取り付け上の注意

**▲電源ハーネスは必ず付属品を使用してください。付属品以外は使用できません。**

- ▲本製品は12V車専用です。
- ▲製品の取り付けは、必ず専門の知識・設備のある取扱い業者でおこなってください。
- ▲取り付け作業前に、必ずバッテリーマイナス端子を外して車両側の電源を遮断してください。電源を遮断しない状況での取り付けは、ショートや感電など重大事故につながります。ただし、バッテリーマイナス端子を外す前に、消えると困るラジオのメモリー内容などをメモしておき、取り付け完了後に再入力してください。入力方法については機器の取扱説明書をご参照ください。
- ▲車両側及び本製品の配線を傷つけないよう、配線の取り回しには十分ご注意ください。また、車内に水が浸入しないよう適切な配線処理をおこなってください。
- ▲本製品の分解や改造は絶対におこなわないでください。
- ▲車体から脱落しないようしっかりと装着してください。
- ▲電源ハーネスは切断して使用しないでください(延長は可)。電源ハーネスには電源回路およびヒューズが接続されていますので、これらを切断してしまうと正常動作しなかったり車両側の故障の原因となります。
- 必ず車体最後部からはみ出さない位置に装着してください。車体最後部からはみ出してしまうと車体の全長が変わり、車検証記載事項の変更などが必要になる場合があります。
- Ⓜ付属のピン端子ケーブルの長さが足りないときは、別途延長ケーブルをご用意ください。
- Ⓜ電源ハーネスのアース線は、塗装などが施されていない(金属が露出している)場所に接続してください。アース不良が原因で、本製品が正常に動作しない場合があります。

- ▲シートレールやペダルなどに噛み込まれたり、挟まれる可能性のある場所など、運転に支障をきたす場所には本製品を絶対に設置しないでください。
- ▲本製品取り付けの際、静電気の帯電にご注意ください。静電気の放電によって機器が故障するおそれがあります。
- ▲配線部分は絶対に引っ張らないでください。断線、接触不良を引き起こすおそれがあります。

メンテナンスについて

- ▲カメラ及びカメラカバーは、ベンジン・シンナー・ガソリン・アルコールなど揮発性がある薬品類で拭かないでください。変質・変形等の原因となります。
- ▲レンズは定期的に、または汚れていたらきれいに拭いてください。但し、拭く際は柔らかい布などに水を含ませ軽く拭く程度にしてください。強くこすったり乾いた布などで拭くと傷の原因となります。

エレクトロタップのつかいかた

- エレクトロタップの「ストッパーが付いていないくぼみ」に、車両の配線を重ねます。
- カバー(A)をしっかりと閉じます。  
※プライヤーなどを使用して「カチッ」と音がするまでしっかりと閉じてください。
- 接続する配線を、エレクトロタップのストッパーに当たるまで差し込みます。
- カバー(B)をしっかりと閉じます。  
※プライヤーなどを使用して「カチッ」と音がするまでしっかりと閉じてください。

故障かな?と思ったら

? シフトレバーを「R」にシフトしてもリアビューカメラ映像に切り替わらない。

純正ナビに取り付け

- 当社製リアカメラ入力ハーネスを使用している場合
- ・カメラのヒューズおよびコード類の接続をご確認ください。
  - ・純正ナビのリアカメラ連動機能は正常に動作していますか?

市販ナビに取り付け

- 市販ナビのリアカメラ連動機能を使用している場合
- ・市販ナビのリアカメラ連動機能をONにしていますか?(市販ナビの取扱説明書をご参照ください)
  - ・市販ナビのリアカメラ連動機能は正常に動作していますか?
  - ・カメラのヒューズおよびコード類の接続をご確認ください。

市販モニターに取り付け(バックミラーモニターなど)

- 外部入力に直接接続している場合
- ・カメラのヒューズおよびコード類の接続をご確認ください。

市販モニターのリアカメラ連動機能を使用している場合

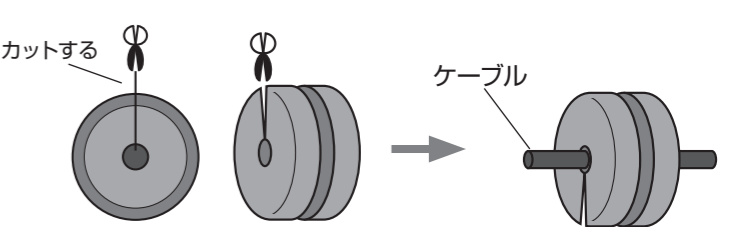
- ・市販モニターのリアカメラ連動機能は正常に動作していますか?(市販モニターの取扱説明書をご参照ください)
- ・カメラのヒューズおよびコード類の接続をご確認ください。

防水ラバー、防水グロメットのつかいかた

カメラのケーブルがトランクなどに噛み込まれると、隙間から水が入り込むおそれがあります。  
付属の防水ラバーをはめ込んで、浸水を防止してください。

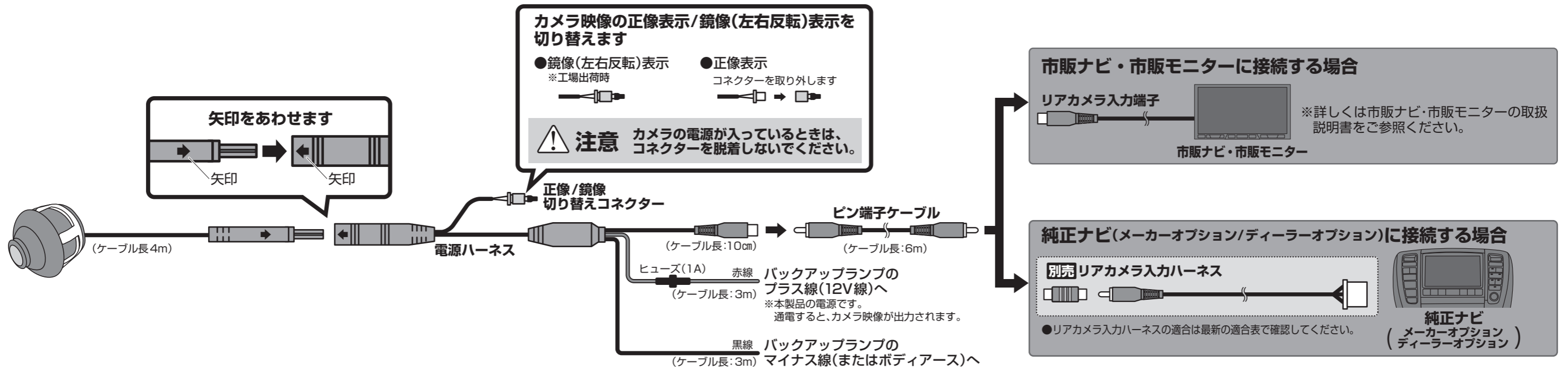


ボディの穴にケーブルを通す場合は、必要に応じて防水グロメットを使用してください。防水グロメットは一部をカットして使用します。



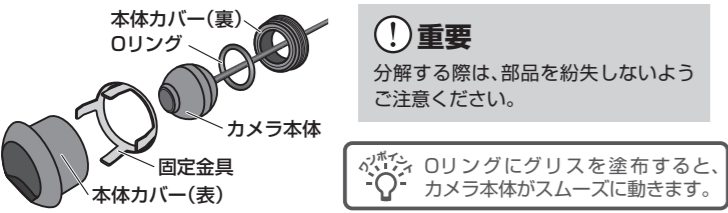
▲ グロメットを使用する場合も、拡大した穴のコーキング処理および防錆処理は必ずおこなってください。

# 取り付け方法



## カメラの構造について

本製品のカメラ部は、下図のようにカメラ本体をOリングに押し付けて固定する構造になっています。本体カバーの締め具合で、カメラ本体の動きを加減できます。



## 取り付けの前に

カメラ本体が適度な手の力で動かか確認します。

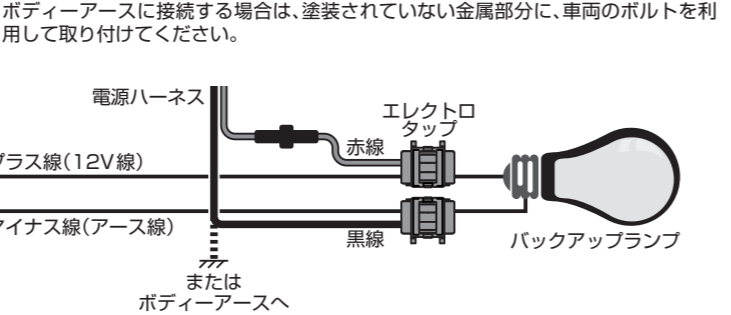
カメラ本体を軽く押すと、動きやすくなります。

動かない場合や、軽い力で動いてしまう場合は、本体カバーを回転させて調整します。

ゆるむ しまる

## 赤線/黒線の接続

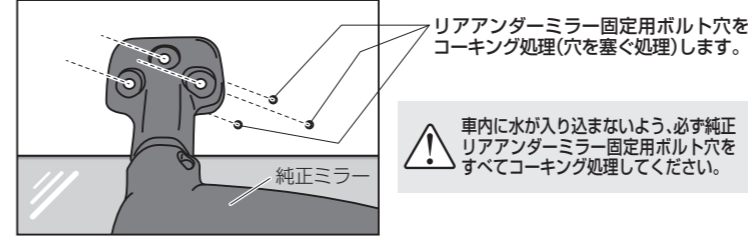
赤線は【バックアップランプのプラス線(12V線)】に接続します。黒線は【バックアップランプのマイナス線(アース線)】、またはボディアースに接続します。



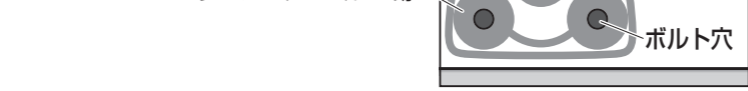
## カメラの取り付け

- カメラの取り付けをはじめる前に**  
 カメラの取り付けをはじめる前に、配線をすべておこなって映像が映る状態にしておくと、カメラの映像を確認できるので取り付け位置の調整がしやすくなります。
- 付属の両面テープをカメラカバーの裏面に貼り付けます。  
 ●付属の脱脂クリーナーで必ず脱脂してから両面テープを貼り付けてください。  
 ●右図で指定している位置は両面テープを貼らずにすきまを空けてください。カメラカバーの水抜き穴になります。  
 すきまを5mm空ける  
 両面テープ貼付位置
  - カメラカバーの表からカメラの配線を通し、カメラをはめ込みます。  
 カメラのくぼみを下にします

## 3. 純正リアアンダーミラーを取り外します。

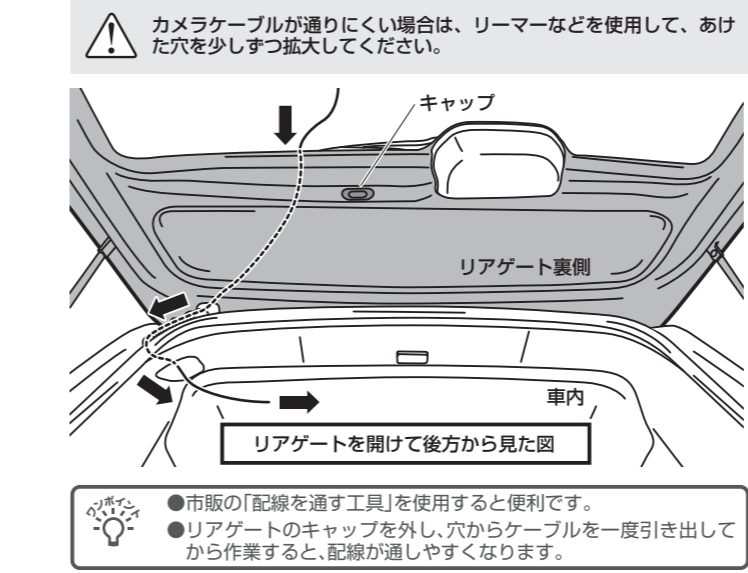


## 4. 外装側の鉄板に「6φ」の穴をあけます。



- リアゲートの鉄板は、外装と内装の二重構造になっています。内装側の鉄板に傷をつけないよう、ドリルの長さに注意してください。
- ケーブルを通したあと、必ずコーキング処理および防錆処理をおこなって、車内に水が入り込まないようにしてください。

## 5. 「4.」であけた穴から、カメラのケーブルを車内に引き込み、電源ハーネスを接続します。



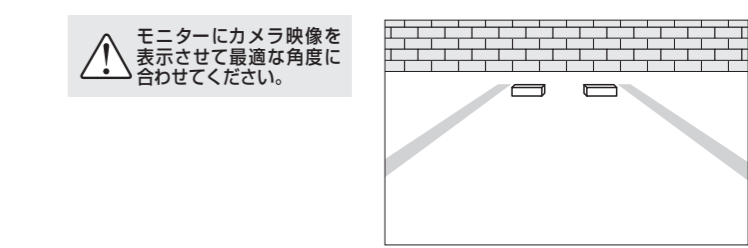
## 6. 付属の脱脂クリーナーや市販のシリコンオフ、またはコンパウンドを使用して、純正ミラーのボルト穴周囲の汚れを取り除きます。

作業時は塗装を痛めないようご注意ください。

## 7. ボルト穴が隠れる位置にカメラカバーを取り付けます。

カメラカバー内で、ケーブルに余裕を持たせてください(2cm程度)。ケーブルに余裕がないと、カメラの角度調整がやりにくくなります。

## 8. カメラを動作させてカメラの角度を調整します。



## 9. 動作確認をおこなってください。